

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置
1	男 20代	MRI造影検査 (慢性腎不全, 脊髄 馬尾神経鞘腫術 後, てんかん, C型 肝炎, 甲状腺乳頭 癌, 心房細動, 被 嚢性腹膜硬化症)	10mL 1回	<p><b>腎性全身性線維症</b> 腹膜透析施行患者, 甲状腺機能は正常, C型肝炎はPCRでウイルス陰性維持を確認。</p> <p>投与日 本剤10mL静脈投与。 投与6日後 前腕を中心に発赤, そう痒感, 膨隆疹出現。 投与17日後 下腿にも拡大し, その後, 四肢に著しい硬化が進行。被嚢性腹膜硬化症のため, 腹膜透析から血液透析に変更。</p> <p>投与約30日後 関節可動域制限, 歩行困難。 投与49日後 アルプロスタジルアルファデクス軟膏塗布開始。 投与63日後 被嚢性腹膜硬化症に対し, メチルプレドニゾロンパルス療法(500mg/日)施行(投与65日後まで)。 投与66日後 被嚢性腹膜硬化症に対し, プレドニゾロン40mgから60mg/日に増量。 上肢の皮膚所見は一部に改善傾向を認めたが, 下肢は関節可動域制限, 歩行困難は継続。 皮膚表面は木のように硬化し痂皮状になっている(面積は若干縮小しているが, 2/3~3/4は残存)。 間欠的に皮膚の強い疼痛を訴える。</p>

#### 臨床検査値

	投与日	投与6日後	投与13日後	投与73日後
血中クレアチニン (mg/dL)	9.8	10.1	10.3	6.4
BUN (mg/dL)	79	100	95	37
白血球数 (/mm <sup>3</sup> )	16610	16170	9670	28560
赤血球数 (×10 <sup>4</sup> /mm <sup>3</sup> )	423	403	354	241
血小板数 (×10 <sup>4</sup> /mm <sup>3</sup> )	32	18.6	14.3	10.9
AST (GOT) (IU/L)	11	5	15	15
ALT (GPT) (IU/L)	51	24	85	24
γ-GTP (IU/L)	25			
総ビリルビン (mg/dL)	0.4			
CRP (mg/dL)	0.1	0.3	0.1	0.6

併用薬: リシノプリル, クロナゼパム, パンコール・B2・B6・ニコチン酸アミド配合剤, アルファカルシドール, ベシル酸アムロジピン, 硫酸鉄, プレドニゾロン, ファモチジン